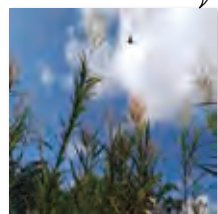


陸水の環境で見られる植物



キダチキンバイ

多年生草本。日当たりのよい湿地や沼などに生える。全体的に毛が生え、黄色い花がよく目立つ。



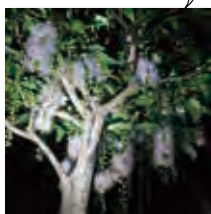
セイコノヨシ
(セイタカヨシ)

多年生草本。穂がサトウキビに似ている。葉が上向きで垂れ下らない。



イボタクサギ

常緑半つる性低木。海岸や砂浜にも生える。葉をもむと臭い。茅葺のときに縄がわりにした。



サガリバナ

常緑亜高木。花は夜に咲き、甘い香りを放つ。宮古島添道に唯一の自生群落地がある。

湿度の高い水辺や湿地に見られる植物。基本的に根を含む植物全体が陸上にある

体の一部またはその全体が水に浸かるような場所に見られる植物。一般には水草と呼ばれる

湿性植物

水生植物

浮遊

浮葉

葉だけが水面上に浮いている

植物全体が水面上または水中で浮遊している

セイコノヨシ
キダチキンバイ

抽水

茎や葉の上部が水面に出ている

フトイ
イヌクログワイ
ヒメガマ

沈水

植物全体が水中に沈んでいる

トリゲモ
イバラモ

池間島いまむかし

1961年



宮古島市総合博物館所蔵

2023年



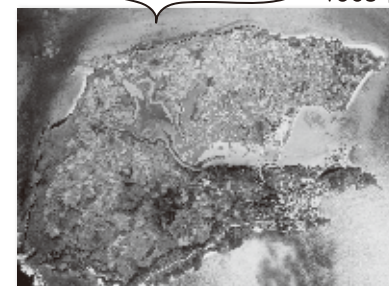
おおがみしま
大神島

いけまおほし
池間大橋

フナクス

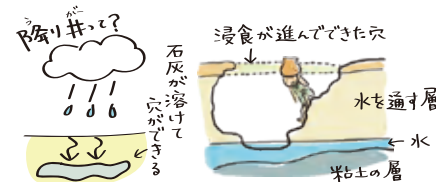
展望台

1963年



※国土地理院のウェブサイトの写真を加工して作成

淡水植物に会いにいこう！



珊瑚礁が盛り上がりできた宮古島の地層は、水を通しにくい粘土の層の上に、水を通しやすい石灰岩が重なってできています。地表に降った雨のほとんどは石灰岩の隙間にしみこみ、やがて海岸の崖下などから海に湧

き出ていきます。こうした湧水の周辺では、淡水を好む貴重な植物を見ることができます。湧水以外にも、降り井や洞泉など、島のあちこちに隠れている淡水の環境を探して、ぜひ淡水植物に会いに行ってみてください。

環境を変えてしまう外来種

生物は自然環境で密接に関係し合いながら生きており、各地域で独自の生態系を作り上げています。在来種は生態系をつくる要素のひとつで、他地域から外来種が入ってしまうと、環境を奪われて数が減ってしまったり、外来種との雑種が生まれたり、多様性が失われてしまったりと、もとの自然環境が大きく変わってしまうことがあります。

このように地域の自然環境に大きな影響を与え、生物の多様性を脅かすおそれのある外来種を「侵略的外来種」といいます。2005(平成17)年に施行された外来生物法では、生態系や人の命や身体、農水産業に被害

を及ぼすおそれのある海外からの外来種を「特定外来生物」と指定し、栽培や移動、野外へ放つことなどを規制しています。

外来種は海外からだけでは限りません。国内でも他の地域から持ち込んだ動植物が環境に大きな影響を与えることがあるため、もとの生息・生育域以外に生物を移動させることがないよう注意が必要です。



特定外来生物

※特定外来生物はその場の移動を禁じられているため、見つけた場合は触らず、環境保全課自然環境係へ。

世界の侵略的外来種ワースト100!

ボタンウキクサ



浮遊性の常緑多年草。南アフリカ原産。繁茂すると水面を覆いつくし、湖や沼、河川の水温低下や、水質悪化の原因となる。

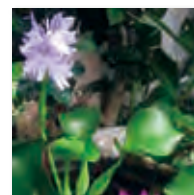
ツルヒヨドリ



つる性多年生草本。小さな白い花が咲く。日当たりの良い場所で勢いよく繁茂し、1日で10センチ以上伸びることもあり、英名で「Mile-a-minute(1分に1マイル)」ともいう。

要注意外来生物

外来生物法に基づく規制はないが、生態系に悪影響を及ぼすであろう種のことをいう。



ホテイアオイ

浮遊性多年生草本。繁茂して水面を覆いつくす。

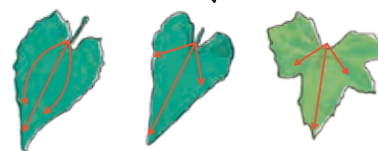


アメリカハマグルマ

半つる性多年草。地面を覆いつくす、駆除が困難な厄介なもの。

よく似た葉をもつ在来植物 引用：環境省那覇自然環境事務所

よく似た葉を持つが、葉脈の入り方が見分けのポイント。



ツルヒヨドリ ツルドクダミ クロミノオキナワスズメウリ

よく似た花をもつが、葉の形がそれぞれ違う。



ハマグルマ アメリカハマグルマ クマノギク キダチハマグルマ オオハマグルマ

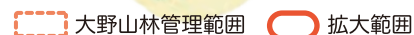
きより しょうじかん とほ
距離:約1.2km 所要時間:徒歩約20分



琉球石灰岩におおわれた宮古は、土の厚さや湿度、地形によって植生のちがいが見られます。土が厚く栄養が豊かで、湿度が高い低地やくぼ地には、タブノキ群落が発達し、土が薄く風が強く乾燥している場所には、ヤブニッケイ群落などが発達しています。

宮古の森林率は約16%と少なく、中でも大野山林は、宮古では最大規模の210ヘクタールの広さがあります。宮古で最も大きな水源である白川田水源の上にあり、水資源を育み守るための保安林として指定されています。また、希少植物の保全地としても貴重な存在となっており、散策コースも作られ、人々の森林体験の場としても利用されています。

一方で、造林のための下草刈りや遊歩道の増加により、開けた空間に外来種
 が入り込み、在来種への影響が心配される現状もあります。



リュウキュウマツ

じょうりくこうくぼく りゅうきゅうわんとう こ
常緑高木。琉球列島の固
ゆうしゅ おう じ だい だい
有種。琉球王府時代に大
き ぼ しょうりん おち
規模な植林がされた。落
ば えだ まき まつ やに あか
葉や枝は薪に、松脂は灯
りにもく ぶ か おく ゆかざい
りに、木部は家屋の床材
し よう ぼ こ ひ
に使用した。エサ箱や挽
き臼
き びにも使われた。

森林の環境で見られる植物

ヌーマピンガスギ



ヤブニッケイ

常緑高木。枝葉は新にした。祭祀にも使われ、葉を擦り合わせて音を出しながら踊る。

コーギー



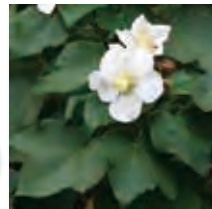
タブノキ

常緑高木。赤い新芽が目立つ。樹皮から線香を作ったので「香木」。汁を漆喰にまぜて建材にも使った。



バクチノキ

常緑高木。樹皮がはがれ黄赤色の木肌が見えるのを、博打に負けて丸裸になる様子に例えてつけた名。



サキシマフヨウ

半常緑低木。林縁によく見られる。晩秋に咲く一重の大きな花が目立つ。落葉せず樹高も大きい。

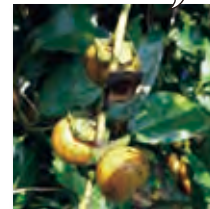
ミズバーギー



ショウベンノキ

常緑小高木。枝を切ると小便のように樹液がしたたり出るのが名の由来。花は5ミリ程で目立たない。

フフバーギー



リュウキュウガキ

常緑小高木。果実は有毒。魚を麻痺させて捕るのに使った。枝は祭祀のときに杖にする。

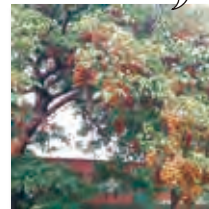
トゥビャーラギー



オキナワトベラ

常緑低木。葉も花も匂う。主にヤギのエサとして使用。薪にもした。

アカツギー



アカギ

常緑高木。巨木になる。樹液が血のように赤いから「赤血木」と呼ばれる。家畜のエサ箱の材料。

アコーギー



アコウ

常緑高木。ガジュマルとよく似る。根が他の樹木に巻きついて枯らすこともある。果実が枝に直接実る。

ムーターギー



イヌビワ

落葉低木。黒くなった果実は食べられるが虫もよくいる。枝葉は家畜のエサにしていた。



実を割ってみよう！
実の中に花がある。こういう形の実はいずれに専属のコバチがいる。



この花のうの中に花が咲いている



中にオスがいる
コバチは別の花のうの中のオスと交尾、産卵。その時にメスが運んだ花粉で受粉、花のうは果のうに成る。

トウスピャギー



コンロンカ

常緑つる性木本。花は小さな黄色い星形。がくの1枚が白く大きくなり、花びらのように見える。緑の中で白が目立つ。

ツバサグース



ヒハツモドキ

常緑つる性木本。果実は乾燥させて粉にし香辛料として使用。若葉は炒め物にしたり、天ぷらにできる。

バンキギー



ヤマグワ

半落葉小高木。若葉はヤギ汁や豚汁など、肉料理に入れた。果実はそのまま食べられる。

じょうりよく もくほん
常緑つる性木本。
トゲのある枝で
他の木に絡んで
登る。果実はやや
えぐみもあるが、
食べる。



ツルグミ

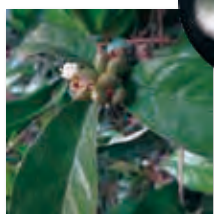
常緑半つる性木
本。葉の縁が波
うって、裏側
は銀白色。果実は
食べられる。



リュウキュウ
ツルグミ



マルバグミ



グミモドキ

ていぼく
常緑低木。果実は食べら
れる。葉が大きいのでオ
バグミともいう。



かんさつ
葉を観察して
みよう!

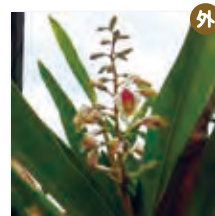
しょうけ
うろこ状の毛
がたくさん生
えている。

るい
常緑低木。グミ類によく
似る。祭祀のときに使う。



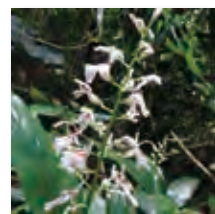
ゲットウ(月桃)

そうほん
常緑多年生草本。
茎を乾燥させて縄
を作った。独特の香
りが虫よけや殺菌、
薬草としても使わ
れる。



クマタケラン

たい
常緑多年生草本。台
湾原産。ゲットウと
アオノクマタケラ
ンの雑種とされる。



アオノ
クマタケラン

さい
常緑多年生草本。在
来種。ゲットウに比
べ小型で花茎が直
立する。



リュウキュウ
ツチトリモチ

宮古島市保全種

多年生草本。クロヨ
ナ、オオバギなどの
根に寄生する。雄花
はネックレスのよ
うに雌花を囲む。

ガラサヌチビ
ヌグーフッサ



オキナワ
スズメウリ

つる性1年草。果実
は有毒。スイカのよ
うなしま模様が珍
しいため、観賞用と
して売られている。



ハウピカンジュ

常緑多年生シダ。
木の幹や岩上に生
え、葉は垂れ下が
る。最近では新芽を
食用にする。



アマチャヅル

つる性多年草。5つ
の葉が特徴的。葉は
噛むと甘味がある。
お茶にして飲んだ。



スバガマギー



リュウキュウ
ボタンヅル

常緑つる性木本。
祭祀に利用。火傷や
傷薬として利用。
刈り取っておいて
正月に家畜のエサ
にした。

タズナイ



サキシマ
ボタンヅル

半常緑つる性木本。
祭祀に使う。
刈り取っておいて
正月に家畜のエサ
にした。

ナガニウサ



ハブカズラ

常緑つる性木本。在
来種。木や岩壁にの
ぼる太い茎がハブ
のように見える様
子から名がつく。葉
に切れ込みが入る。



モンステラ



オウゴンカズラ
(ポトス)

半つる性多年草。観
葉植物。ハブカズラ
に似るが、葉に穴が
あく。

常緑つる性木本。在
来種。観葉植物が野生化
して大型化。白い模
様がいった、ハート
形の大きな葉をつ
ける。



シラタマカズラ

じょうりよく 常緑つる性木本。気
こん 根を出して木の幹
のぼ や岩によじ登る。マ
ツ林でよく見られ、
真っ白な花や果実
が目立つ。



テリハノブドウ

はんらく 半落葉つる性木本。
葉の光沢が強く果
実は熟すと青色に
なる。葉を家畜のエ
サにしたりした。



ハカマカズラ

常緑つる性木本。
葉がハカマに似て
いることから名前
がついた。



ヘクソカズラ

つる性多年草。葉を
もむと悪臭がする。
若葉を汁物に入れ
た。薬用としても使
われた。

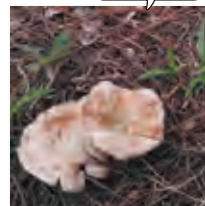


つる植物は、他の
植物などに絡んで
高いところまで上
り、光を効率よく
得ています。その
上り方は実に様々
です。



菌類 {食べられる}

マツミム



ぜんたい あわ 全体が淡いオレンジ
色。雨にあたったり
きず あおみどり へん
傷つくと青緑色に変
色することもある。

アカハツ

宮古ではリュウキュウマツ
のみが唯一の共生相手。

ボウズミム



ぼうず 坊主の頭のような
形をしている。カ
サの上面は強い粘
り気がある。

チチアワタケ

宮古諸島で昔から食用
にされてきた。

アダングーヌミム



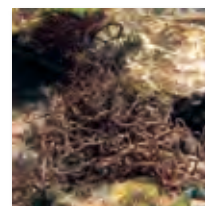
か 枯れたアダン
から生える。
白く扇形で、柄
はない。

トキヒロヒラタケ

島に降った雨のほと
んどは地下に浸透す
るため、湧水地でし
かみられない。

木が茂って光合成ができなかつ
たり、地下水が汚染されたりす
ると消滅するおそれもある。

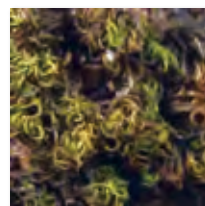
淡水藻類



ミヤコチスジノリ

2002(平成14)年に、
日本の固有種で国の天
然記念物シマチスジノ
リの変種とわかった。
城辺のヌグスクガーで
のみ生育が確認されて
いる。

コケ類



ミヤコジマ
ネジチゴケ

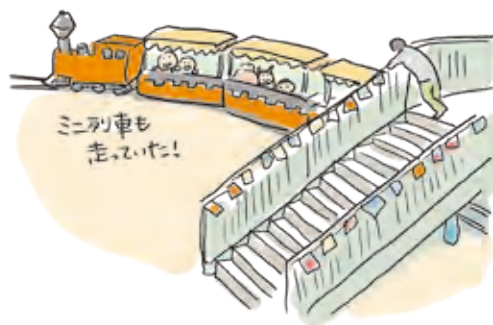
2014(平成26)年に宮古島で発見
された新種。日本国内では初確
認。乾くと葉がちぢれる。

コケ類は環境に敏感な
ので、コケ類の種類で
環境の状態を知ること
ができる。

県内最大の熱帯植物園

宮古島市熱帯植物園は、戦前までリュウキュウマツの林地で、琉球王府の時代から木材を切り出す山として管理されていました。しかし、廃藩置県後、管理する者がいなくなり、戦争中にリュウキュウマツが乱伐され、戦後はハゲ山同然に荒れた不良林地となっていました。

その後、1964(昭和39)年からナビフタヤマを中心とした12万平方メートルの林地を、自然教育や市民の憩いの場として造園が進められました。こうして1967(昭和42)年、平良市熱帯植物園が誕生しました。その後、2005(平成17)年に宮古島市熱帯植物園と改称し、2009(平成21)年に体験工芸村が開設されました。



いまの植物園

- ① マツ林
- ② フクギ並木
- ③ イスノキ
- ④ デイゴ並木
- ⑤ ソテツ
- ⑥ コバナンヨウスギ
- ⑦ パンノキ
- ⑧ イジュ
- ⑨ カンヒザクラ
- ⑩ オオギバショウ
- ⑪ シマナンヨウスギ
- ⑫ ヤエヤマヤシ



森をまもる、「そで」と「マント」



- ・強風や直射日光をやわらげる
- ・土が流れ出すのをふせぐ

山林を観察すると、山林と道の間には草や低木が生えています。これらの植物は林内へ侵入することなく、また離れもせず、一定の位置関係を保っています。このような植物は、山林の土砂が流れ出るのを防ぐ大切な役目をしており、「そで群落」と呼ばれています。

また、山林の外側は低木やつる植物が茂っており、マントを羽織っているように見えることから、それらの植物群を「マント群落」と呼んでい

ます。人間がマントを着て寒さから身を守るように、山林の中に直接風が吹き込んだり、日光が直射して乾燥するのを防いでいます。

一見荒れた印象を与えるため、森の邪魔者と思われて刈り払われたり、工事などで山林の周辺をえぐり取ったりすることがありますが、その結果、山林内の環境が変わり、山林が後退して荒れていくことになるため、むやみに刈り払わないよう注意が必要です。

厳しく管理された仙山

琉球王府の山奉行が監督し、間切・村(島)が管理する山

宮古の南北方向には数少ない山林のラインがいく筋かのびています。山林は昔から生活に必要な木材や薪、食べ物を調達する場であり、限られた資源のため、琉球王府から厳しく管理されていました。

詳細なマニュアルや厳重なルールを定めた造林も盛んに行われ、1700～1800年代にかけて、マツなどの建築資材のほか、農作物の塩害対策のためのアダン、凶作時の食用として

のソテツなどが植えられました。

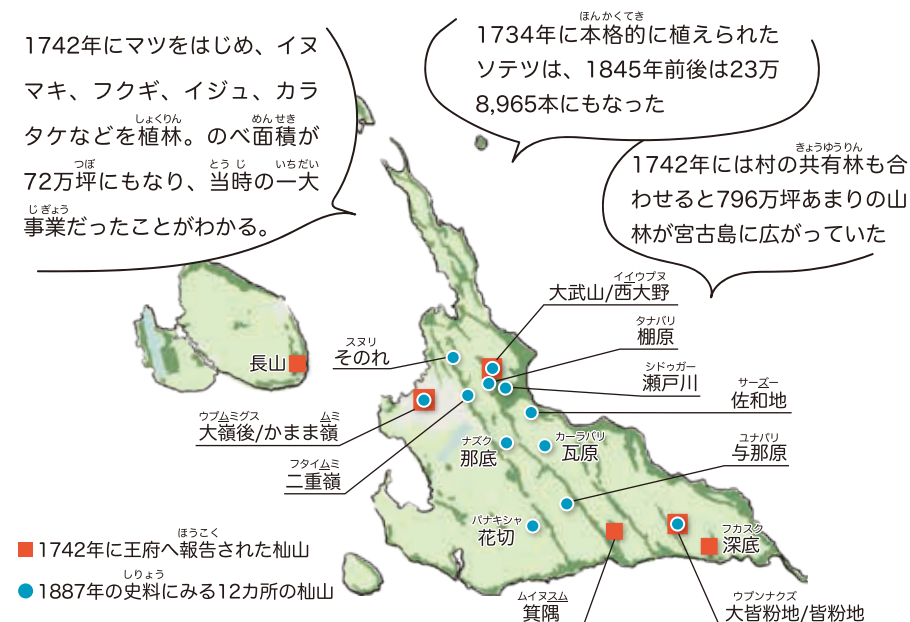
1879年の廃藩置県後、管理の手が離れた仙山は、盗伐乱伐の対象となり、急速に衰退していきました。

現在では牧山と大野山林でその一部を見ることができますが、開発による伐採は続いています。50年、100年先も緑豊かな宮古の環境を残していくために、これらの山林を守っていくことも重要な課題となっています。

1742年にマツをはじめ、イヌマキ、フクギ、イジュ、カラタケなどを植林。のべ面積が72万坪にもなり、当時の一大事業だったことがわかる。

1734年に本格的に植えられたソテツは、1845年前後は23万8,965本にもなった

1742年には村の共有林も合わせると796万坪あまりの山林が宮古島に広がっていた



■ 1742年に王府へ報告された仙山

● 1887年の史料にみる12カ所の仙山

『宮古の自然と人』第三巻自然編Ⅱ部より

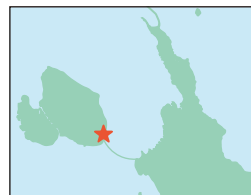
牧山散策コース(森林・御嶽林)

牧山公園は伊良部島の東側の断崖上に位置し、サシバの形をした展望台からは、宮古島と池間島、来間島、各島をつなぐ3つの大橋を一望できます。宮古諸島の形や位置関係がよくわかり、植物の環境が観察できる場所でもあります。

なぜ御嶽はこの地域でとても大切にされている御嶽。



基本的に神役がいないと入れない。入る前と出る時にお祈りをし、神役が最初に入って最後に出る。



御嶽林

御嶽は、集落の人にとって大事な祈りの場で、むやみに立ち入ることや許可なく伐採することが禁じられています。その結果、自然林に近い植生が残されています。

牧山散策コース(森林・御嶽林)

さい し しょく ぶつ 祭祀と植物

宮古では昔から各集落ごとに祭祀が行われてきました。多い地域では年間に50を超える祭祀が行われ、五穀豊穡、無病息災、航海安全など、暮らしと深く結びついています。そういった祭祀にも植物が使われており、各集落ごとに少しずつ違いがあります。



マータ

3本のススキを三又に束ね、種まきの終わった畑の中央に立てて豊作を祈る。

食物にそえて魔よけに

サン

バラザン、サン(藁算)

藁算は、稲藁やイグサなどを結んで、数の記録や計算機として使った沖縄独自の民具。宮古ではススキを使った。農民や庶民を中心に県内各地で使われていた。現在は宮古や八重山、一部の沖縄島で稀に祭祀に使われる。



バラザンを糸で内める ススキ

ソテツ

サン

ソテツ

葉をお皿がわりに



ゴットウ

モンパノキ

スマフサリ、スマツサリ

集落から厄を祓う行事のこと。集落の各方位の出入口にススキなどで編んだ綱に豚の骨をぶら下げ、結界のように張る。



グシャ
枝

リュウキュウガキ・クロツグ・ダンチクなど

こし おび
腰帯

トウツルモドキ・クロツグ・ススキ・サキシマボタンヅルなど

ティ ウサ
手草

ヤブニッケイ・グミモドキ・ダンチク・シマヤマヒハツ・ク

くさかんむり
草冠

シイノキカズラ(キャン)・カラスキバサンキライ・グンバイヒルガオ・クロツグ・サキシマボタンヅル・リュウキュウボタンヅルなど